

9 近年の自然災害への対応

(1)令和4年3月16日の福島県沖地震

被害状況

- 令和4(2022)年3月16日夜中の福島県沖を震源とする最大震度6強の地震は、宮城県及び福島県を中心に甚大な被害をもたらしました。
- 被害は農業用ハウス等の倒壊が多く、栽培されていたトマト等の作物が被害を受けました。
- 東日本大震災の被災地の復興は着実に進展してきたところですが、令和元(2019)年東日本台風の被害や近年の新型コロナウイルス感染症の影響がある中での災害であったため、復興に向けた希望が失われることがないよう、速やかに対応を行いました。

図表 2-70 宮城県の被害の状況(令和4(2022)年6月17日時点)

宮城県の農業関係被害額	45.6億円
農作物等	32.1億円
農地・農業用施設	13.5億円

資料：記者発表資料「令和4年3月16日福島県沖を震源とする地震に伴う被害状況等について」



台の一部落下（宮城県）

図表 2-71 福島県の被害の状況(令和4(2022)年6月22日時点)

福島県の農業関係被害額	27.6億円
農作物等	1.8億円
農地・農業用施設	25.8億円

資料：福島県災害対策本部員会議（第22回）



ベッドの崩落（福島県）

東北農政局の取組

東北農政局では、3月16日に東北農政局災害対策本部を設置し、計5回の会議を実施し被害情報の収集・共有等を行っています。

また、3月17日から宮城県、山形県及び福島県にMAFF-SAT（農林水産省・サポート・アドバイsteam）を派遣し、令和4(2022)年の営農再開に向け取り組みました。

農地・農業用施設等の復旧状況

災害復旧事業により、被災した農地1.4ha及び農業用施設74箇所の復旧工事を行い、令和5(2023)年度内の完了の予定です。



ため池の被災状況 施行前
（福島県新地町
しんちまち）



施工後

(2)令和4年7月及び8月の大雨

被害状況

➤ 令和4(2022)年7月及び8月の大雨では、低気圧や前線による記録的な大雨により、一部の地域では線状降水帯が発生し猛烈な雨が降り続き、東北各地で、農地・農業用施設の損壊、農作物の冠水、農業用ハウスの浸水等の甚大な被害が発生しました。

図表 2-72 東北管内の大雨に係る被害の状況(令和5(2023)年3月31日時点)

	農作物等	農地・農業用施設関係	合計
7月15日からの大雨	51.3億円	45.9億円	97.2億円
8月3日からの大雨	126.3億円	240.4億円	366.7億円

資料：農林水産省作成

東北農政局の取組

東北農政局では、7月16日に東北農政局災害対策本部を設置するとともに、東北管内各県にリエゾン^{なかとまりまち}を派遣し、被害等の情報共有と情報収集体制の確保を図りました。

また、つがる市^{なかとまりまち}と中泊町^{つがるほくぶ}にまたがる津軽北部地区において、河川の氾濫による湛水被害が発生したため、8月12日から22日にかけて、MAFF-SAT（農林水産省・サポート・アドバイsteam）を派遣し、東北農政局の災害応急用排水ポンプ車による排水作業の支援を行いました。



農地の湛水状況（青森県つがる市）



排水状況（中泊町）

農地・農業用施設等の復旧状況

災害復旧事業により、被災した農地170ha及び農業用施設687箇所の復旧を行うこととしており、農地79ha及び農業用施設423箇所については、すでに工事に着手しています。

矢ノ目排水機場の冠水
（宮城県大崎市）大光堤1号ため池の決壊
（山形県川西町）